

訓子府の農地を守る



大雨などの被害から農地を守るうと、北海道と訓子府町は、「農地の防災機能増進事業（常呂川流域地区）」を実施しました。2年間の調査で効果的な表土の流出抑制対策を打ち出し、22年度以降、地域、町、道が一体となって訓子府の農地を守っていく対策を实践していく予定です。

集中豪雨などで近年被害が発生

近年、台風や大雨、融雪時に農地の冠水や表土流出の被害が増えています。このため、道は道内各市町村の農地災害対策の強化を図るため、農地防災機能増進事業を実施しています。

訓子府町内は、河岸段丘の上部に農地が多く存在し、土壌は火山灰性土で保水性に劣るなど、50年代から区画整理や暗きよ排水などの基盤整備を実施してきました。しかし、集中豪雨などで、表土流出、斜面崩壊による河川への土砂流出などの被害が近年発生していることから、道が中心となって20、21年度2か年で農地防災機能増進事業をモデル的に訓子府町で実施しました。

2か年で災害要因などを調査

20年度は、調査事業。常呂川など河川の流域における過去の被害状況、地形、気象などの現状を把握しました。調査から分かった災害要因は下の表の通りです。

また、21年度は18の実践会長や土地改良区関係者などによるワークショップが開催され、訓子府の農地を守るため、行政、地域が何をすべきかの対策について検討を重ねてきました。

| 災害要因 | |
|--------|----------------------------------|
| 気象的要因 | 平成10年以降、短時間強雨の発生頻度が増加している |
| 地質的要因 | 降雨の緩衝能力が低く、難浸透性の土壌特性から、表土が流出しやすい |
| 地形的要因 | 丘陵地では傾斜度が高く、斜面が長いほ場が多く、表土が流出しやすい |
| その他の要因 | 緩衝帯や土砂溜めなどを設置するほ場が少なく、表土が流出しやすい |



農地防災機能増進へ表土の流出抑制対策

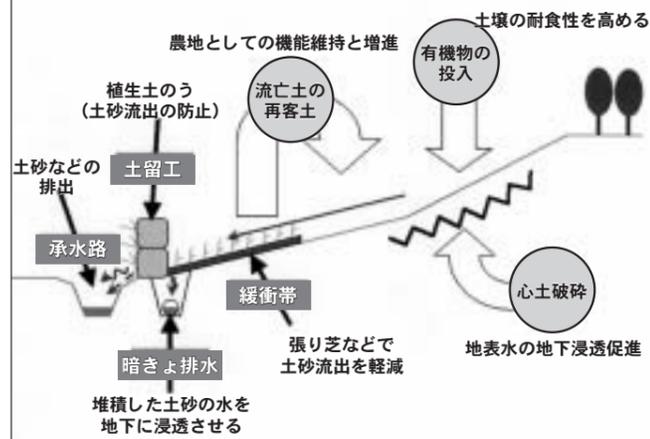
営農面の主な効果的対策

- ① 畦畔^{けいはん}＝ほ場の低い部分に畔^{あせ}を設ける
- ② 有機物投入＝有機物を活用し、土壌の粒化を促進する
- ③ 緩衝帯＝ほ場の低い部分に緩衝帯（緑地帯）を設ける
- ④ 土砂溜め＝降雨時に表土が集中しやすい場所に土砂溜めを設置する
- ⑤ 法面保護＝ほ場や用排水路法面への除草剤散布を控える

土木面の主な効果的対策

- ① 暗きよ排水＝地中に水路を設け、ほ場の排水性を改善する
 - ② 心土破碎^{しんどぼくさい}＝耕盤層（ほ場地下の硬い部分）を破壊し、透水性や通気性を改善する
 - ③ 区画整理＝急傾斜地の勾配を緩和する
 - ④ 沈砂池^{ちんさち}＝ほ場の低い位置に土砂を溜める池を設置する
 - ⑤ 承水路^{じやうすいりょ}＝ほ場外から流れ込む水を遮断するため境界に水路を造る
 - ⑥ 治山＝山腹工事や森林の整備、砂防ダムの設置など
- ※土木面⑥の治山は、特に行政が中心になって実施する対策ですが、営農面と土木面の①暗きよ排水から⑤承水路までは、農地を所有される方による対策です。

対策の例



22年度以降も沈砂池を設置

町内では、今年度、紅葉川改修に併せ、大規模沈砂池を2か所設置中。22年度は、タンノメム川改修計画の中で、大規模沈砂池を2か所設置予定です。また、今後排水路の改修時に沈砂池を設置するよう検討中です。

表土は大切な財産・資源

作物が順調に生育できるように、農家の皆さんが土壌改良資材や堆肥を使用し、また、客土（ほ場に土を入れる）をしながら長い年月と費用をかけて育んできた表土は大切な財産です。一度流出すると、また長い年月と費用をかけて表土を作らなければなりません。大雨などによる農地の表土流出を抑制、軽減するため、地域の皆さんと町、道で各種対策を実施し、大切な資源を守りましょう。